

知事と区市町村長との意見交換（檜原村）

令和1年9月19日（木）

16時35分～16時55分

○行政部長 それでは意見交換を始めさせていただきます。冒頭、知事から一言お願いいたします。

○知事 ご多用のところ、檜原からお越しいただきました。ありがとうございます。日頃より大変都政運営にご協力いただいておりますこと、改めて御礼申し上げます。

いよいよ明日からワールドカップ、そしてまたオリンピック・パラリンピックも309日ということで、どんどん準備の方を加速しているところでございます。

今日は少し視線を遠くに置いて、長期戦略の中でぜひ檜原村として考えること、また、都に対してこういったことを望むという点をお聞かせいただければとお招きをさせていただきました。

それで、長期戦略についてはまずビジョンを年末までに作成をいたします。それからさらに肉付け等をするというタイムラインで考えております。ということで、どうぞ今日はよろしくをお願いいたします。

○檜原村長 それでは檜原村における取組や課題等について、ご説明をさせていただきます。

まず一点目ですけれども、高齢者が地域で安心して暮らせる社会の実現に向けてであります。檜原村では医療環境を確保することから、昭和31年に檜原診療所を設置しております。東京都とは災害拠点病院等の連携を図っているものの、災害時における当村は孤立する可能性があることから、当診療所が災害時の拠点となる可能性が高くなっております。

また、日常の医療環境の確保としては、村内に住む高齢者の方の市街地、いわゆる村外への通院負担を軽減させるために、当診療所の機能維持と医師の確保は今後も大変重要な課題だと思っております。

現在は職員としての医師が1名在職しておりますけれども、最低でも2名体制の運用が必要であると考えておりました。医師の公募、派遣については東京都にもご協力をいただいておりますけれども、現段階では1名ということで確保が完璧にはできていない状態にはありません。医師の確保について、今後共さらなる支援を賜りたいと考えておりますので、よろしくお願いをしたいと思います。

続いて二点目でありますけれども、豊かな環境や充実したインフラを次世代に引き継ぐ都市の実現に向けてとありますけれども、檜原村は東京湾の源流であり、酸素の供給地であることを自負し、水質保全や森林整備を進めているところであります。

特に源流という観点からは、河川の水質の維持は上流からという考えの下、下水道整備を平成11年に着手し、令和2年度には全事業計画の102ヘクタールの整備が完了する予定であります。

一方、水道につきましては都営水道から外れて、村直営で簡易水道事業を運営しております。村内には2系統の水源があり、その中の北秋川水系については浄水施設環境の更新が終了し、もう一つの水系についても更新等を計画しており、一般会計からの多額の財政支援が課題になっております。

都営水道として管理、運営している都内市町では既に高水準で安定、安全な水の供給が確保されており、同じ都民でありながらサービスに格差が生じていると感じております。

また、国では水道、下水道等の広域化を進めております。このような状況を踏まえ、都が培った技術力をもって下水道並びに水道事業を一元化し、維持、管理していくことがより効果的であると考えております。

実は9月13日ですけれども、全国利き鮎グランプリで檜原村の川で獲れた鮎が準グランプリを獲りました。9月13日です、最近のホットニュースです。それも下水道の完備された、そのお陰かなと思っております。今日はその宣伝をさせていただきます。

続きまして三点目ですけれども、成熟した街づくりと豊かな自然を活かした地域の活性化についてであります。

檜原村では農林水産物のブランド化として、じゃがいもを原料としたじゃがいも焼酎を、特区制度を活用して村内で製造する準備を進めております。これには特に知事には大変お世話になりました。

木材ではその活用方法を示すものとして、小中学校教室の木質化、図書館、村営住宅、バス待合所、公衆トイレ等の建設において、積極的に地場産材として使用しています。

また、当村ではトイ・ビレッジ構想を策定し、木のおもちゃ等の製造、販売と、おもちゃ美術館の建設を準備しております。特に来年、この建物数億掛かると思いますが、よろしく願います。

現在、村から出荷される木材が多摩産材として流通しているものを、今後、檜原産材としてブランド化を図り流通させるべく、木材の天然乾燥施設の整備を村でしました。そしてトレサビリティの確立を図り、新たなブランド材として流通させていきたいなと思っております。

このような現状を踏まえて、村での活用事例等を参考にいただき、都立高校の教室あるいは公衆トイレ、その他、公共施設へ木材活用の拡充並びに災害時に備え、檜原産材を使用した木造仮設住宅の導入を検討していただきますよう、お願い申し上げます。

特に、実は岩手県の住田町という林業の町がありますけど、ここでは例の3.11の時にオール木材での仮設住宅が約450万で出来ているようです。これが非常に、私も視察に行きましたけれども、環境のよい仮設住宅で、もう何年も住み続けられるような住宅になっていますので、ぜひこれもよろしく願いたいと思います。

今日はこの、以上三点でございます。よろしく願います。

○知事 ありがとうございます。やはり気遣いというか、檜原はもう木材で生きていくんだという強い意思を感じたところでございます。それから高齢化比率は昨年度からもう50%ということではありますが、ただそうやって産業が栄えることによって、また新しい人材も

来てもらいたいということですよ。確か木材の若い人達の活動があると。

○檜原村長 そうですね。チェンソーズというのが活躍してまして、実は木のおもちゃ美術館は、彼らと連携をしてもう数年経ったんですけども、それを元におもちゃ美術館、木だけのおもちゃ美術館を立ち上げる準備をしております、おもちゃ、工房、つくるところは、実は11月頃からはスタートできるかと思っております。おもちゃをつくる方は先にスタートできます。

○知事 もう木一本で特色を出されるというのは大変良い考え方ではないかなと思います。一方で、今日もう長期どころか、今の困っておられる点として医師の確保ということですよ。

都の方では自治医科大学の卒業生であるお医者さんや、地域医療支援ドクターの派遣を行って、そして大学病院等からの医師を定期的に派遣する、へき地勤務医師等の確保事業をやっておりますが、引き続き檜原を含めて町村における医師の確保については支援をしていきたいと、これはまず2,200人が安心して住める都市の基本になるかと思えます。

それから下水道事業と都営水道の一元化について、これは副知事の方からいきますか。

○副知事 お話のように、檜原村の素晴らしい環境を維持、発展させていくためには下水道事業というのは非常に大きな役割を果たしているというふうに認識しております、これからは流域下水道本部等を通じまして、支援を充実させていただきたいと思っております。

あと上水の方、水道の方の一元化につきましては、やはり様々な技術的な問題、それから長年の経緯というのもございますので、所管局の方にまたご相談をしていただければというように思います。よろしくお願いいたします。

○檜原村長 ありがとうございます。特に、次の世代が住みたくなる環境づくりの一番基本になるのが、上下水道の整備だと思っております。上水道も既に水源2系統の中の片方は去年度で耐震化も全部終わりました。あと半分残っていますけれども、特にこれからの水道の一元化というのが国の方でも叫ばれていますので、ぜひ仲間入りをさせていただきたいなと思いますし、特に下水道は先ほど鮎の自慢話をしましたけれども、東京湾が綺麗になって、江戸前の鮎も檜原まで上がって来てますし、さらにこれを完璧に、グランプリが獲れるまでには知事、応援していただいですね、下水道も完璧にいきいたいと思っております。よろしくお願いいたします。ありがとうございます。

○知事 今回、準グランプリね。次がグランプリと。目標があつて、素晴らしいことだと思います。

○檜原村長 この5年間の間に準グランプリが2回ですから。だから自慢したいなと思つて、今日は。

○知事 あと、それから檜原のように多摩地域の非常に自然に恵まれた所をね、観光という観点からもっとインバウンドの人も含めてPRできればと思いますし、木に囲まれると精神の癒しになるので、サテライトオフィスとか、そういう形で、皆、通勤列車と逆の方向に行くと、必ず空いていると思いますし、テレワーク等の整備というのを連携させてい

ただけたら良いと思います。

それからトイレ、これはちょっと素晴らしいじゃないですか。

○**檜原村長** すごいでしょ、知事。

○**知事** ちょっとすご過ぎない？

○**檜原村長** 檜の香りがものすごいです。

○**知事** そうですか。

○**檜原村長** はい。東京都に一つしかない村がいかにもブランド力を高めるかという時に、村に入って最初のトイレがいかにも良い印象を与えるかだと思って、思い切ってつくりました。

○**知事** はい。とても良い試みというか、檜原はトイレだっていうね、鮎の方が良いかもしれませんが、でも一つ良い柱だと思います。

ご承知のように、全国知事会で国産木材の活用ということ、本当にもっと全国的に共存、共栄でやっていきましょうという声を掛けておりますし、これから都立の様々な施設で多摩産材に、檜原も含めてでありますけれども活用しつつ、他地域の木材も活用して、とにかく木材を使うことがその環境の面でも、それから防災、中山間地域を守るという点でも重要だということも示していきたいというふうに思っております。

それからご提案のあった災害時の応急仮設住宅ですけれども、建設業団体等と協定を締結しておりますが、被災時に木材を確保できるのならば、檜原産材はじめとする多摩産材を活用することも選択肢の一つだと考えております。

それから、今回の台風で停電が生じて、私はずっと無電柱化を言っている者でございますので、これらもむしろ町の真ん中の電柱でぼうぼう生えてる所もそうなんですけれども、檜原がずっと今回のように、例えば停電した時のことを考えますと、無電柱化できる所を早急にすべきだと思っています。その辺りも算段付けておいていただければと思います。

○**檜原村長** ありがとうございます。特に急傾斜地のものですから、その電柱が倒れる危険性も非常に多いわけですけども、幸いに、前におきた台風では倒木が3本ですみましたので、今回は被害は皆無ということになりました。

○**知事** 木はどんどん大きくなりますしね、その度に木が掛かることによって断線してというのが、今回の千葉やまた島の方ではかなりそういう倒木による停電もありました。そういう意味で無電柱化もぜひ進めていきたいと思っております。

あと、長期計画ということで、ぜひこの村の人口が今2,000人。そして50%の高齢化率ではありますけれども、産業を活性化をし、またお医者様が確保できるような、そういう檜原村ということ、これから2040年も2050年もその後も元気な村であり続けるため、またこういったことを持って行って、後で気が付かれたことや、村民の皆さんからのご意見等もまた聞かせていただいて、長期戦略についての肉付けをしたいと思っております。よろしくお願ひします。

○**檜原村長** 分かりました。本当にありがとうございました。

○**行政部長** 本日はご多用のところ、遠いところからまたありがとうございました。これ

で意見交換を終わらせていただきます。ありがとうございました。